研　修　班　だ　よ　り　No.3

■対話的な学び（言語活動）について

1．はじめに

前回は「振り返り」について書きました。今回の研修班だよりは、授業中に教員が発する問いや、生徒からの質問により生じる対話的な学び（言語活動）について書いて見たいと思います。

2．「対話的な学び」とは何か？

「対話的な学び」とは教育課程企画特別部会「論点整理」では「他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める」ものとされています。しかしそれがただのおしゃべりとなったり、対話自体が目的となり深い学びにつながらない場合もあるようです。また、ある個人の意見に全員が流されて学びに至らないケースもあるようです。「対話的な学び」によって資質、能力が育成されているか、学習内容が深く理解されているか、学習への動機付けにつながっているかなどが条件であると言われています。

また、対話とは教室の生徒同士の対話だけでなく、時間的に広げる意味で教科書や文献などから学ぶことも、重要な「対話」であるとされています。

「対話的な学び」を生徒と教員の関係で考えた時に、教員は戦略的な授業設計の上で授業にあたり、様々な意見をくみ取りながら授業をまとめ、ときには一致した生徒の意見に別の意見を出して揺さぶりをかけることで生徒の考え方を深めることも大切です。

3．生徒の問い

生徒の問いは、ある地点でつまずいていて、その場で教員からすぐに救ってもらいたいという合図とも言えます。基本的にはその場ですぐに生徒を救える（生徒の問題を解決できる）技術、専門知識を教員側は日々の研鑽でつけておく必要があると思います。仮に共その場ですぐに答えられなくても、調べて時間をあまりおかずに生徒に必ず答えを示すことが教員と生徒の信頼関係を維持するのに必要かと思います。

4．アクティブ・ラーニングの視点

対話的な学びは、次の通りアクティブ・ラーニングの視点の一つにもなっています。

「論点整理」におけるアクティブ・ラーニングの視点

【対話的な学び】

他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。